

平成 30 年度第 2 回図書館協議会議事録

1 開催日時 平成 30 年 9 月 15 日（土）午前 10 時～12 時

2 開催場所 中央図書館 2 階視聴覚室

3 出席者

（委員）押樋委員長 小出副委員長 越村委員 豊永委員 立松委員 西村委員
伊勢田委員 高橋委員

（事務局）中央図書館長 中央図書館副館長 総務係長 レファレンスサービス係長
図書資料第 2 係長 総務係主任司書
生涯学習課こども図書館準備室長

4 傍聴人 0 人

5 議題

（1）報告事項

- ① 夏休みの行事実施状況について
- ② 平成 30 年度蔵書点検について
- ③ 平成 29 年度図書館自己点検評価について
- ④ その他
中央図書館大規模改修について
子ども図書館について

6 議事の概要

（1）報告事項

- ① 夏休みの行事実施状況について、事務局より報告を行った。
- ② 平成 30 年度蔵書点検について、事務局より報告を行った。
- ③ 平成 29 年度図書館自己点検評価について、事務局より報告を行った。
- ④ その他
中央図書館大規模改修について、事務局より報告を行った。
子ども図書館について、事務局より報告を行った。

7 会議経過

（1）報告事項

- ① 夏休みの行事実施状況について事務局より報告を行った。
その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

(質問) 子ども防災教室は、図書館単独で考えた企画か。

(回答) 企画をしたのは図書館だが、実施にあたっては、浦安環境共生都市コンソーシアムに参加していた企業にも協力をお願いしている。また、昨年度までは中央図書館で開催したが、今年度は日の出公民館で開催した。

(意見) 日常生活の防災という意味で、大変いい企画だと思う。最近では、地震だけでなく、大規模な水害なども多いため、ハザードマップ等を用いた防災教室を、緊急の企画として行ってもよいのではないかと。対象は子どもに限定する必要はないのではないかと。

(回答) 参考にさせていただく。

(意見) 本題から逸れるが、先般の西日本の豪雨により水没した図書館がいくつかあった。図書館にとって一番怖いのは、火と水である。図書館自身の水害対策も、できるだけ早く具体化したほうがよいと思う。

(意見) 公民館でも、市民向けの防災講座を開催しているが、いざという時に力になるか疑問である。自治会なども取り込んで、エリアごとに取り組まないと、あまり実践的なものにはならないのではないかと。

(回答) いろいろとご意見をいただいた。この講座は、もともと「浦安震災アーカイブ」の活用を目的とした講座であったが、それだけではなく、ハザードマップ等、図書館には様々な資料があるので、公民館や防災課と連携して、考えていきたい。

(意見) 本来は防災課の役割なのだろうが、こういう時こそ、人が多く集まる図書館や公民館で開催してほしい。

② 平成 30 年度蔵書点検について、事務局より報告を行った。

その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

(意見) この数値をどうとらえたらよいかと、昨年も質問した。東京都の図書館に比べれば低いとのことだったが、本当にそうなのか。不明資料 360 冊がどのような資料なのか、もう 1 歩踏み込んだデータ分析が必要ではないか。その分析結果によって、啓蒙の仕方も考える必要があると思う。不明率が下がった等は論点ではない。不明数を減らすことが改善であり、前年度と同様の報告では意味がない。

(意見) 不明資料というのは、無断で持ち出したものもあるということか。企業等でもある程度の万引き率は考慮しているので、これをゼロにしろというのは酷だと思う。悪いことをする人のコントロールをすべて図書館でやるというのは難しいだろう。私も委員になるまでは、不明資料の存在を知らなかった。きちんと調べているということを明示するのも、ある程度の抑止力にはなるのではないかと。

(回答) ここに出ている不明資料というのは、全てが無断持ち出しのものではなく、誤った場所にまぎれているものや貸出処理の漏れなどによる未貸出資料も含んでいることは御了解いただきたい。データ分析についてなど、今後の対策についてはご意見をいただいたので、参考にして検討していきたいと思う。

③ 平成 29 年度図書館自己点検評価について、事務局より報告を行った。
その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

(意見) コメントに対する図書館側からの改善案などを表明してもらえるとよいと思う。

(意見) 以前ホームページにあった「分館だより」がなくなって、さびしく思っている。あれはとてもよい企画だった。

(回答) 以前は各館でそれぞれ違う内容のものを作っていたが、更新頻度も高くしていたため、負担が大きかった。現在は「図書館だより」という形式で、分館は 1 館がとりまとめて書いている。

④ その他

中央図書館大規模改修について、事務局より報告を行った
その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

(意見) 現在、公園の工事が始まっていて、ポスターなど表示がされているが、なんともそっけない内容に見える。図書館が工事に入るときには、もう少し挨拶や、工事の予定などもわかるような内容の掲示を考えてほしい。

子ども図書館について、事務局より報告を行った
その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

(意見) 全国的に注目度の高い浦安の図書館に、なぜこの構想が持ち上がったのか、中央図書館の児童室とはどういう関係になるのか、今後いろいろ質問されることが予想される。期待も大きいので、わかりやすい形にしてほしい。

(意見) 子どもの読書離れに対する対策のゴールが、いきなり「子ども図書館」というのが、どうもよくわからない。

(回答) 具体的に、どこに、どの規模で、ということもまだ決まっていない。中央図書館もリニューアルするが、その中で対応できるものとできないものがある。これは新しい取り組みであり、新しいことに対応する

には新しい場所が必要な場合もあると考える。

(意見) 思想が明確でない。まずは思想を固めていってはどうか。そのために専門家のアドバイザーなどから意見を聞けばよいと思う。そこを固めないで、中央図書館はどうするとか、職員はどうするとか、予算はどうするなどといった、枝葉末節な議論ばかりに終始してしまう。

(意見) 新しい取り組みと言ったが、それは本来ここの図書館でやるべきことではないのか。

(回答) もちろん今までやってきた児童サービスの延長でもあるので、そこと調整をしながら進めていくことになる。

(意見) 講演会でも取り上げていたが、メディア中毒の問題を解決するとか、いろいろな役割が考えられると思う。すでにレベルの高いサービスを展開している浦安の図書館の児童室が、どういう子ども図書館を作るのか、全国的にも注目されている。

(意見) 支える理論・思想をしっかり作らないといけないと思う。アンケートで拾い上げるだけでなく、図書館行事の中でワークショップを開くなど、プロセスに子どもが関わるようにし、主役を子どもにした図書館づくりを進めていってほしいと思う。

(回答) 読書習慣をつけてほしいというのが大きな目的である。現在の図書館サービスは未就学児向けのサービスが中心なので、中高生に向けた取り組みや、それ以前の取り組みを通して読書習慣をつけるという取り組みをやっていきたいと考えている。

(意見) 「図書館」という名称は考え直したほうがよいのではないか。

(意見) 個人的には、子ども図書館ができたらしょっちゅう行きたいと思う。ドキドキワクワクする、シニアでも行きたくなるような場所を作ってほしい。

(回答) 施設の話ばかりではなく、運営側の人材育成の大切さについては十分理解しているので、その点についても取り組んでいきたいと思う。

以上